

NEW CROWN 授業実践事例

BOOK 2 LESSON 7 授業例②

F.M. 先生

指導計画表

(全11時間)

時間	学習内容・主な活動
1~3	■とびら ・プレ活動 ■GET 1 ・語句・表現の導入 ・本文の導入・理解 ・文法の導入・理解・定着 ・本文の音読・暗唱
4~6	■GET 2 ・語句・表現の導入 ・本文の導入・理解 ・文法の導入・理解・定着 ・本文の音読・暗唱
7~9	■GET 3 ・語句・表現の導入 ・本文の導入・理解 ・文法の導入・理解・定着 ・本文の音読・暗唱
10~11	USE Read

実践例

1. はじめに

私の授業の目標は「自分が言いたいことを英語で表現すること」である。もちろん、英語学習を通して自国の文化の良さをより深く理解することで、他国の文化を尊重することができる人を育てていきたいとも考えている。

授業の展開は GET については 1 ページにつき 3 時間設定にしている。

1 時間目は新出単語や語句の導入、本文の内容理解、文法の導入を行う。家庭学習の宿題は新出単語句等を 10 回以上書いて覚えてくることとしている。

2 時間目は単語テストを行った後、文法の定着を図るためにコミュニケーション活動やゲームを行う。家庭学習の宿題は文法復習プリント。

3 時間目は、文法小テストを行った後、さまざまな音読活動を行い、本文を暗唱させる。家庭学習の宿題は、本文を 5 回以上書いて英文の定着を図る。次時に本文の小テストを行い、確認をする。

小テスト（単語テスト・文法テスト・本文テスト）は予め作成して、専用かごに順番通りに入れて各教室においている。チャイムと同時に教科リーダーが配布し、始めるようシステム化している。また、キッチンタイマーを使い、時間設定をしているので、終了時間がくれば単語テストと本文テストは隣席の者と交換してマルつけを行う。文法テストは回収し、マルつけを行い定着の確認を行う。

私の授業は「予習」をしてることが前提である。また、授業形態の基本はペア学習である。その他、授業中辞書を使わせる工夫をしている。黒板には毎時間ごとに目標や学習活動をカードにして提示する。

2. 具体的な私の授業ノート

I 1 時限目 本文の内容理解 —GET 1—

1. 新出単語の発音練習とペア学習

全体の発音練習後、隣席のペアで発音確認（A の人が発音するのを B の人が確認・B が発音するのを A が確認）→意味確認→（個人で）スベル確認→ベ

アでの確認という順にタイマーで流れていく。その間、机間指導をすることができる。

2. 本文の内容理解

写真と表を使い、オーラルアプローチで迫る。

This is Mt Fuji. Did you see it? Did you climb it? Mt Fuji is 3776 m high. Very high. So I can't climb it. And this is Mt Kilimanjaro. Mt Kilimanjaro is in Africa. Mt Kilimanjaro is high, high, higher than Mt Fuji. It is 5895 m high. By the way, can you name the highest mountain on each continent? Can you tell the name of the highest mountain on North America? On South America? On Australia? On Europe?

2 回目、本文カードを黒板に貼りながらもう一度内容を確認する。本文カードは句ごとに分けて書いている。例えば、最初の文は This table shows some high mountains around the world. さらに裏側にはこの表示しているいくつかの高い山世界でというように日本語を書いている。

3. 意味確認

ペアで本文の意味を確認させ、1~2 ペアに発表させる。

4. 内容についての質問

質問①~⑤にアンダーラインを入れ、解答を書かせる。生徒には予習を予告する段階でノートに貼るプリント（解答用紙）を配布している。

【資料 1】

This table shows some ①high mountains around the world. Mt Kilimanjaro is ②higher than Mt Fuji. ③It is ④the highest mountain in Africa. Can you name ⑤the highest mountain on each continent?

①	(原) 級	②	比較) 級
②	(代名詞のさすもの)		
④	(最上) 級	⑤	(最上) 級

①	T・F	②	T・F	③	T・F
①	(Q&A の解答欄)				
②	(Q&A の解答欄)				

T or F Test は容易に答えられる質問にしている。

- ① This table shows some high mountains around the world.
- ② Mt Kilimanjaro isn't higher than Mt Fuji.
- ③ Mt Fuji is the highest mountain in Africa.

Q&A の場合、①は Yes / No で答えられる質問、②は主語と動詞を使って答える質問にしている。

- ① Can you name the highest mountain?
- ② What does this table show?

5. 辞書の活用

単語に付箋を付けさせている。生徒は付箋が増えていくことを嬉しそうにしている様子が見られる。辞書から学んだことや気付いたことを書き取らせる。机間指導して、声を大にして「なるほどねえ。変化の仕方に注目したのね。他にも同じ変化するものも見つけたね。」等と言って褒めると効果的で、こちらの意図する事を調べ始めるという具合である。

【資料 2】

意味	原級	比較級	最上級	辞書
	high			
	big			
	happy			
	large			
than				

II 2 時限目 文法の導入・理解・定着

- 1. (教科書 p.79-1) Listening Practice
- 2. (教科書 p.78) Point 文
- 3. コミュニケーション活動

○ダイナマイトゲーム 1 (資料 1)

○カードゲーム (資料 2)

4. ノートづくり

比較級と最上級のまとめをさせる。

板書はポイント文を書くのみで、生徒自身に考えさせて書かせる。

○まずは英文の意味を書こう

○何と何／誰と誰を比べているのだろうか

○比べるものさしは何だろう

○比較級／最上級の形の違いはどこにある

○比較級／最上級を使う時ってどんな時

○目印になる単語はどんな単語だろう

等、様子を見ながらヒントを与え、机間指導する。数名の生徒に「ここを板書してきて」と指名し、各クラスの板書が完成する。

III 3 時限目 教科書暗唱

1. カードを黒板に貼り、本文音読

この時間のねらいは教科書を読んで、読んで、読んで暗唱することにねらいを置く。ここに Reading のバリエーションを紹介するが、適宜その場の状況に応じて使う。また、英文の日本語訳も確認した上でなければ意味がないことも付け加えおく。

○教科書や黒板を見ながら

- ・ Chorus Reading (教師について読む)
- ・ Buzz Reading (一定の時間ひたすら読み続ける)
- ・ Read & Look up (1 文ずつ、覚えたら顔を上げて言う)
- ・ Four Directions Reading (体の向きを 4 方向にかえながら読む)
- ・ In Time Reading (制限時間内に読む)
- ・ On Time Reading (制限時間ぴったりを読む)
- ・ Turn Cards Reading (黒板の英文カードを部分、部分で日本語に変えながら英文にしていく)
- ・ Championship Reading (早く正確に読めた生徒の発表)

○ペア Reading

- ・ Japanese-Japanese Reading (日本語で会話する)
- ・ English-English Reading (ペアについてリピートして読む)
- ・ Shadow Reading (ペアについて輪唱して読む)
- ・ English-Japanese Reading (ペアの読む英文を聞いて日本語にして言う)
—ここからは黒板のカードは日本語面です—
- ・ Japanese-English Reading (ペアの言う日本語を英文にして言う)
- ・ Intake Reading (英文を自分のものとして暗唱する)

Reading の指示はカードを貼り、時間を告げて行う。

2. 暗唱タイム

1. 20 分程度の時間を残して、暗唱タイムに入る。
2. 黒板に自己表現する日本語を書く。
3. 教科書専用ノート回収の指示をしておく。

ノートは3種類あり、待っている間に練習専用ノートに宿題の英文を書いてもよいことにしている。

3. 自己表現

ページごとに新しく学んだ文型を用いて、条件に合わせて英語で表現させるようにしている。生徒たちが表現したいと思えるように、題材は身近なものから考えている。

自己表現 条件：学年の先生について

- ① tall の比較級を使う
- ② young の最上級を使う

以上が GET の指導の流れである。

以下には GET 2 と 3 のアンダーライン、T or F, Q&A, 自己表現等を参考に書いておく。

—GET 2—

質問

- ① This graph は何グラフか
- ② the most popular は何級か
- ③ more popular は何級か
- ④ I とは誰のことか
- ⑤ Their のさすものは何か
- ⑥ more beautiful は何級か
- ⑦ Their music is more beautiful.

(省略されている表現)を書きなさい。

T or F

- ① This graph is in the UK.
- ② The Beatles are more popular than Eagles.
- ③ Ken likes Eagles' music.

Q&A

- ① Do you know Elvis Presley?
- ② What does this graph compare?

自己表現 条件：教科について

- ① more を使って

- ② the most を使って

辞書： more most その他, more, most
を使うものについても気付かせる

—GET 3—

質問

- ① the largest は何級か
- ② It は何をさしているのか
- ③ large は何級か
- ④ Some whales とはどのような鯨か
- ⑤ louder は何級か
- ⑥ better は何級か

T or F

- ① The whale is the largest animal.
- ② All whales communicate by singing.
- ③ Whales' songs are very loud.

Q&A

- ① Which does Meiling like better, whales or dolphins?
- ② How do some whales communicate?

自己表現

※前時に宿題として日本と同じ位の面積の国や人口の国を調べてくるよう指示している

- ① 主語は Japan, as~as を使って
- ② あんパンとメロンパンどちらが好きかを聞く文をつくりなさい
- ③ 質問にあなた自身について答えなさい
Which animal do you like the best?

辞書： as~as better best

その他の不規則変化についても気付かせる

USE (pp.84-85)

教科書が改訂され、USE の Read について内容に、とても興味深い教材が増えた。逐語訳をしてもその内容の良さが伝わらない気がして、大意をつかんでの表現力をはぐくむように工夫をしている。

I 教材の導入

1. 教材への興味を引く工夫

パラグラフ 1 のプリントを配布し、読む。

□ 1 Good Presentations
 When ... you do?
 You can ... show it.
 Sometimes ... talking.
 Let's ... do this.

語数	小計	評価
10	10	D
9	19	C
5	24	B
8	32	A

2. 本文中の代名詞が何をさすかを確認する

3. 大意を日本語でまとめさせる

情	報	を			合	う	た	め	に
		方	法	と				方	法
が	あ	る	。	時	に	,			
方	が			す	る	よ	り	効	果
的	で	だ	。	今	か	ら			の
方	法	を	見	て	み	よ	う	。	

100文字前後でというまとめさせ方も試みてみた
 が、本文の訳文を書いて字数を超えて書くなどの生
 徒が多く見られたので、穴埋めの方法で行っている。
 空欄に入れる語が、生徒の思い浮かぶ単語の字数と
 違うこともあり、苦勞することもあるようである。
 それを避けるのであれば () 書きでの穴埋め
 にするのも一つの方法である。が、私は日本語の表
 現力も大切だと考え、あえて上記の形態で行ってい
 る。

4. ペア学習で音読する

各パラグラフのプリントには1文1行で、その横
 に単語数を書いている。パラグラフごとに時間を設
 定し、制限時間内に読めたところを評価 ABCD とし
 ている。ペアでの練習後、確認し合い評価に○をす

る。パラグラフ 1 は 15 秒、2 は 20 秒、3 は 15 秒、
 4 は 20 秒、5 は 10 秒で設定した。

5. パラグラフ 2 3 4 への導入を行う

—教科書は閉じたままで—
 Drawings Graphs Tables のカード
 教科書の湖の絵、円グラフ、表を提示
 Listening Quiz を行う

パラグラフを聞かせ、それぞれの図表に Drawings

Graphs Tables のカードを生徒に貼らせる。

パラグラフ 2 についての内容を確認する。
 ・何を比べているのかな。
 ・琵琶湖は他の2つの湖より面積が広いといっ
 ていますが、それはどこで分かりますか。
 ・摩周湖についてはどうですか。
 ・田沢湖についてはどうですか。
 ・どうしてそのようなことが分かるのですか。

プリントに大意をまとめさせ、音読活動を行う。

こ	の	よ	う	に	,			に	す	る
と	日	本	の	3	つ	の		の		
						度	や		が	ひ
と	目	で	分	か	る	。				

パラグラフ 4 についての内容を確認する。
 ・3つ目の表にはどのような特徴があるかな。
 ・3つの国についてのどのような情報ですか。
 ・どのような時に使うと効果的ですか。

こ	の	表	は	,	多	く	の		
	情	報	を			に	,	そ	し
て			に	堤	示	す	る	こ	と
に	効	果	を	発	揮	す	る	。	

・パラグラフ 5 についての内容を確認する。
 ・代名詞のさすものを確認する。
 ・2文を日本語訳させる。